



農業
橋爪 聖さん
(38歳)

ハウスの中で実ったナスの収穫に汗を流す橋爪聖さん。以前は車の整備士として働いていたが、知人が漬物販売に携わっていたこともあり、高菜の栽培をするようになった。その中で農業の面白さに気づき、家業であるナス栽培を本格的に始めるようになったとのこと。「会社とは違い、農業は自分の頑張った分が、収穫量などで目に見えて分かる。それが農業の面白さの1つだと思えます」
先輩たちに支えられて
ナスの栽培を始めて5年目。徐々に慣れてきたと語る橋爪さん。始めたばかりのころは、農業の知識が少なく、大変だったと振り返る。講習会や普及所へ行き、勉強を重ねた。



はしづめ きよし
両親と3人で農業を営む。「休みの日には趣味のバスケットボールをしています」
瀬高町本郷。
【みやま市にひとこと】
農業を始める人が増えてくれたらと思います。
【好きな言葉】人に優しく

「講習会などのほかにも農家の先輩から学ぶことが多かったです。その意味では、みやま市は人があたたかく、優しいので、これから農家を始めようと考えている人にとって、良い環境が整っていると思います」
向上心を持って
「課題や反省点を、次の年に活かしていくように考えます。どうしたらうまくいくかを探りながら作業をしています」
整備士のころに比べると朝が早く、大変なことも多いが、毎日やりがいをもって作業に励んでいる。自分が作ったナスを「おいしい」と評価されることがうれしく、モチベーションにもなるとのこと。
「農業は、毎年同じことをやるだけで結果が出るほど単純ではありません。もつと勉強と経験を重ねて、収穫量のアップを目指していきます」
本郷の伝統行事『どんきやんきやん』にも毎年参加しているという橋爪さん。地域の伝統を受け継ぎながら、市の特産品であるナスの栽培に励んでいく。

「ルフラン」の取り組みが大きな効果を生んでいます

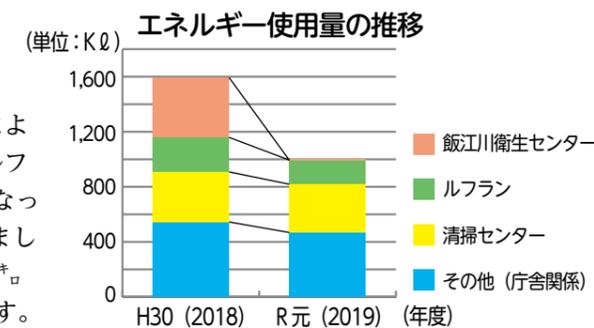


みやま市バイオマスセンター「ルフラン」では、生ごみ10トン、し尿42トン、浄化槽汚泥78トンの合計130トンを受け入れています。それらをメタン発酵によりガスを発生させ、発電を行い、施設内の電力と温水として活用します。発酵後の液体は、液肥として水稻や麦などの栽培に利用されています。エネルギー使用量の削減やJ-クレジットの認定など、大きな効果を生み出しているのは、市民の皆さんに生ごみ分別に協力していただいているおかげです。引き続き、生ごみ分別へのご協力をお願いします。

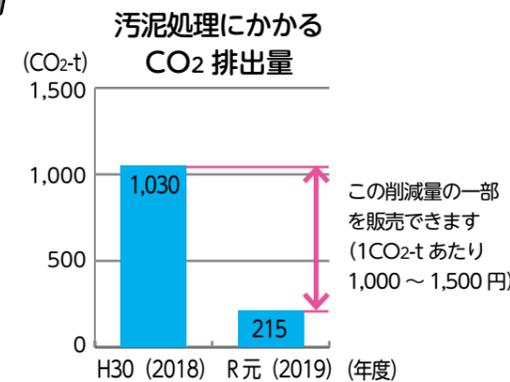


成果その1
エネルギー使用量 38%削減!

ルフランの発酵処理により、し尿汚泥の重油による汚泥焼却をやめることができました。また、ルフランでは自家発電により使用電力の50%をまかなっており、電力使用料金を年間約900万円削減しました。エネルギー使用量(原油換算値)は、1,593千キロワット時から994千キロワットとなり、約38%も削減しています。



成果その2
CO2削減量を販売できる「J-クレジット」に認定!



ルフランの稼働開始以降、CO2排出量の約80%削減を達成。CO2削減量を販売することができる国のJ-クレジット制度に認定されました。CO2削減量の販売で得た収益の年間約30万円は、未来を担う子どもたちの環境教育の予算に充てる計画です。

J-クレジットってなあに?

「J-クレジット」は、省エネルギー設備の導入や適切な森林管理などの取り組みで生み出された、CO2などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度だよ。
※クレジット…政府間や企業間で取引される、温室効果ガスの排出権



航空業や運送業など、どうしてもCO2排出量が多くなる企業は、J-クレジット制度に認定された事業者からCO2削減量を購入して、自社のCO2排出量から差し引くことで、CO2排出量の削減を達成しているんだって。

みやま文芸
真清水俳句会
ひまわりや新居の子等の声ひびく
ひとときの睡蓮の花浄土かな
復活の願い込めたる花火あり
大祓い太鼓と蟬の大合唱
様々にかがやく願ひ天の川
スイ〜ドボンはんぎり競う夏まつり
清水俳句会
墳原の風に句友の三尺寝
蓮池のこんな高みにあろうとは
花合歓をつなぎて駆ける一日旅
からうじて終の花合歓にも会へし
手に触れて香に触れ蓮の声を聴く
ときめきし紅のやさしき大賀蓮
道の辺の帰路を彩る合歓の花
老鶯の声透き通る里曲かな

綿貫 惇	梅野 博山	森田 蓉子	宮地 末子	平井 和子
綿貫 淑子	紙田 幻草	樺島美代子		
西原トシ子				
古賀 麗子				
岩屋 清美				
壇 篤子				
猿渡 洋子				